

【投信調査室コラム】

日本版ISAの道 その52

NISAの資産形成層に向いていて、NISAの「王道」とも言われている毎月積み立て(時間分散、ドルコスト平均法)は今…。

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

NISAの資産形成層に向いていて、NISAの「王道」とも言われている毎月積み立て

NISAが始まり3カ月が経過した。今回はNISAの資産形成層に向いていると言われる積立投資(時間分散)を考える。最近のメディアでも「一括ではなく5年間で計100万円になるように積み立てた場合、大半の資産で一括投資より、成績が最低だった場合の傷が浅くなっていた。」(2014年4月9日付日本経済新聞朝刊)、「NISAは5~10年の長い投資の受け皿として期待されている。短期決戦で無税の売却益を狙う戦略も悪くないが、王道は毎月積み立てなどの長期投資だと思う。」(2014年4月2日付日本経済新聞朝刊)、「20代の66%、30代の57%は毎月積み立て投資を希望しており、年齢層が低くなるほど『一括投資派』は少なくなる傾向がある。」(2014年4月2日付日本経済新聞朝刊)、「年明け早々にNISA口座を使って日本株に投資した人の多くは、現在含み損を抱えていると思われます。…(略)…。たまたまベストのタイミングで売買ができることもありえますが、そうした投資を続けられる人は残念ながらいません。そこで、今回解説する分散投資の手法の一つである『時間分散』を活用するのです。」(2014年4月6日付日経ヴェリタス)などと報じられている。中には「『貯金は100万円、毎月の給料から積み立てられるのは2万円。ボーナスで預金できるのは頑張って20万円』という若い世代のお客様には、どんな提案をするとよいだろうか。この場合、若さの特権『時間がたっぷりある』ことを有効に活かせる積立投信を勧めたい。例えば、『複数の先進国に投資する外債ファンドを1万円、日本の株式、世界のリートを5000円ずつ、ボーナス時は外債ファンドを10万円と日本株、世界リートを5万円ずつ』——という提案が考えられる。」(近代セールス2014年4月1日号)と言う具体的な提案が報じられているものもある。しかし「複数の先進国に投資する外債ファンド、日本の株式、世界のリート」と言っても実感がわかない。それらの推移をグラフで見ることはもちろん良いが、その次、それが積立投資でどの様なリターン(リスク)になるのかがわかりにくい。そこで今回は、積立投資の2014年3月末にかけてのリターンを確認する。



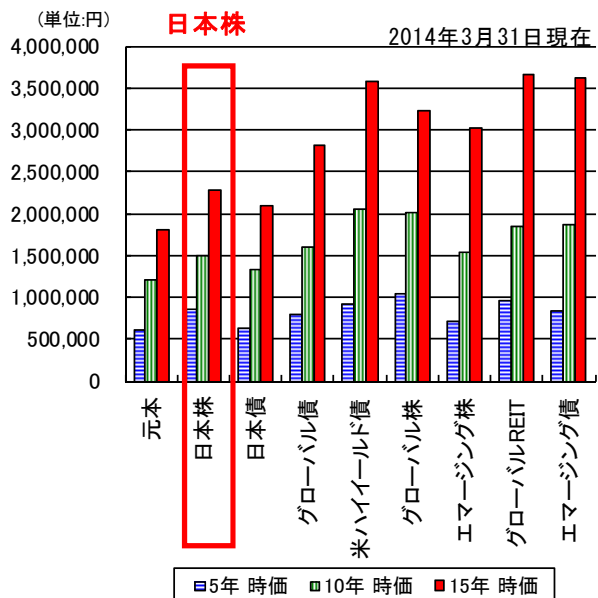
多様な資産を多様な積立期間(5年・10年・15年)と多様な売却時点で確認

積立投資は毎月1万円などの定額を積み立てる「ドルコスト平均法」とも呼ばれるもの。しかし積立投資はリターンやリスクの把握が難しい。そこで積立投資を理解するため、毎月末に1万円ずつ積立購入してきたケース、つまり、毎月1万円定額の積立(ドルコスト平均法)を、投信に使われることの多いベンチマークで確認する。NISAの年間上限は100万円で、単純に12で割ると月8.3万円程度だが、ここでは分かりやすく(若者や働く世代にもより現実的な金額である)1万円としている。それを5年、10年、15年という3つの投資期間について見ている。また、「日経平均株価に連動する投資信託の購入を前提に考えると、結局、投資成果は売却時点の日経平均の水準次第だ」(2013年10月6日付日経ヴェリタス)との視点も考慮、売却時点も変えて確認する事とする。

まず下記左のグラフ①は2014年3月31日時点の時価で、右のグラフは2014年3月31日時点の損益(*手数料等は無視)である。2014年3月31日までの5年積立ではグローバル株が最も良く、10年では米ハイイールド債、15年ではグローバルREITやエマージング債、米ハイイールド債が他の資産と比べてリターンが良かった。各種アンケート調査によるNISA経由の投信購入で、人気の投資先とされる分配金の多いREITファンドやハイイールド債ファンドのリターンの高さが示されている。

グラフ①

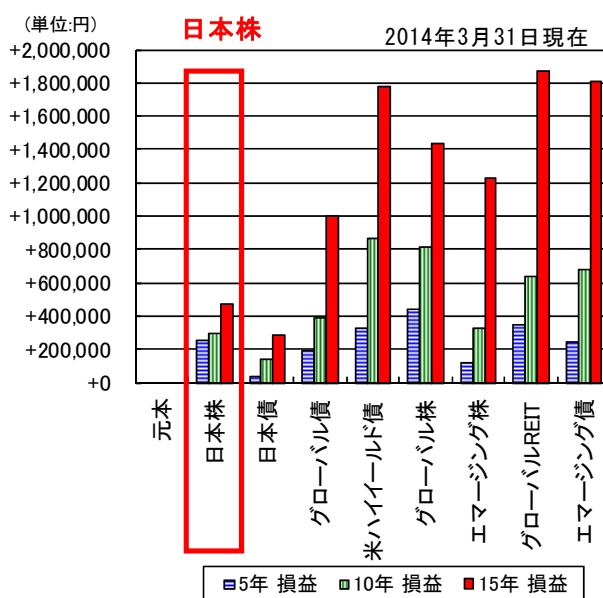
2014年3月31日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の時価 *左から投資期間 5年・10年・15年。



(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)
*ベンチマークとはブルームバーグで代表的と思われるものを使用している(以下同じ)。

投資期間 5年・10年・15年

2014年3月31日 まで毎月末に10000円ずつ購入した時の現在の損益 *左から投資期間 5年・10年・15年。



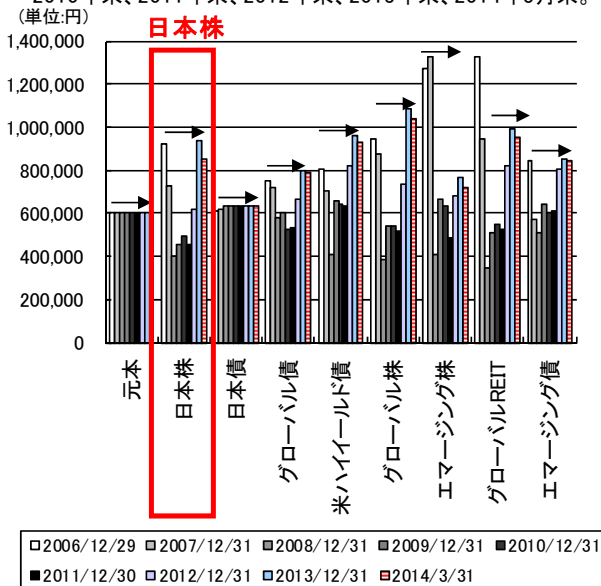
(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

続いて売却時点を変える。上記の2014年3月末に加え、2013年から2006年の各年末、計9つの時点で見ることとする。下記グラフ②が投資期間5年のものである。

グラフ②

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の時価

*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、2010年末、2011年末、2012年末、2013年末、2014年3月末。

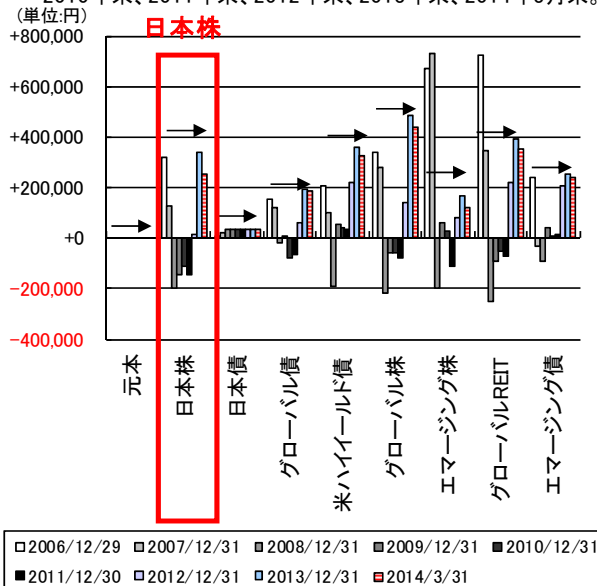


(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

投資期間 5年

毎月末に10000円ずつ5年間購入した時の損益

*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、2010年末、2011年末、2012年末、2013年末、2014年3月末。



(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

5年間、毎月積み立てた場合、2006年および2007年末に売却するならばエマージング株とグローバルREITはとても良かった。しかし、リーマン・ショック(2008年9月15日以降)後、大半の資産は損失となり、2012年以降はプラスに転換、2013年においては、2006年や2007年ほどではないが利益が拡大している。大手証券会社やネット証券がNISA口座買付けランキングにおいて投信積立部門の売れ筋1位に紹介する事が多い日本株を見てみると、2008年から2011年の年末まで損失、2012年によろやくプラス転換、2013年に過去8年で最も高い利益となったが、その後の株の下落でわずか3カ月後の2014年3月末には利益は過去3番目の大きさとなっている。日経ヴェリタスの言う「**結局、投資成果は売却時点の日経平均の水準次第だ。**」の通りである。

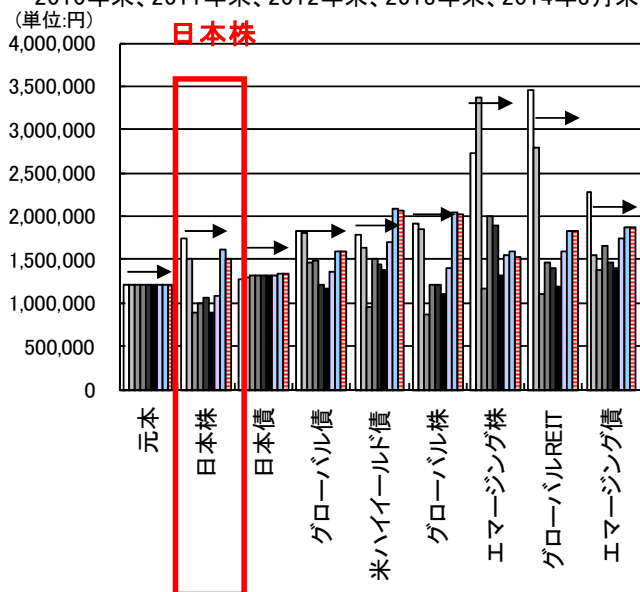
続いて下記グラフ③が10年である。前頁の5年に比べ全般的に利益が増えてくる。エマージング債は5年では売却の時期によっては利益や損失を出していたが、10年投資すれば、いずれの時期でも利益を出している。グローバル債は5年では2008年から2011年の年末まで損失またはかろうじてプラスになっていたが、10年では2011年末をのぞいて全ての期間で利益となった。日本株は2008年から2012年の年末まですべて赤字だったが、2013年にプラス転換した。

グラフ③

投資期間 10年

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 時価

*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、2010年末、2011年末、2012年末、2013年末、2014年3月末。

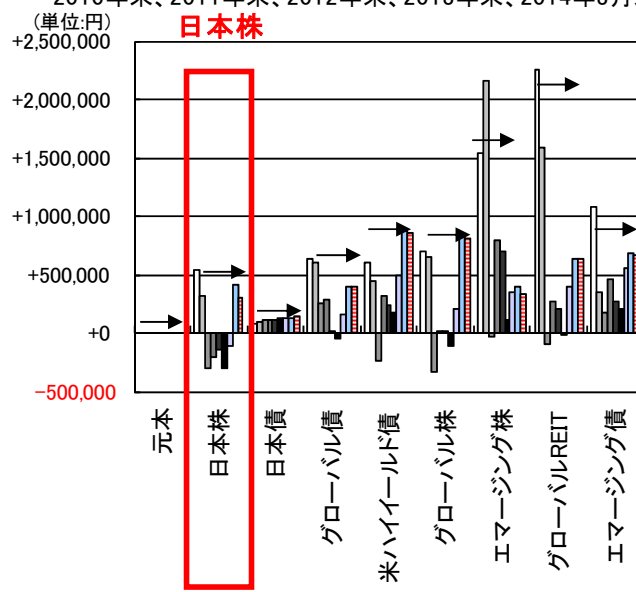


□2006/12/29 □2007/12/31 □2008/12/31 □2009/12/31 ■2010/12/31
 ■2011/12/30 □2012/12/31 □2013/12/31 ■2014/3/31

(出所:ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

毎月末に10000円ずつ10年間購入した時の 損益

*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、2010年末、2011年末、2012年末、2013年末、2014年3月末。



□2006/12/29 □2007/12/31 □2008/12/31 □2009/12/31 ■2010/12/31
 ■2011/12/30 □2012/12/31 □2013/12/31 ■2014/3/31

(出所:ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

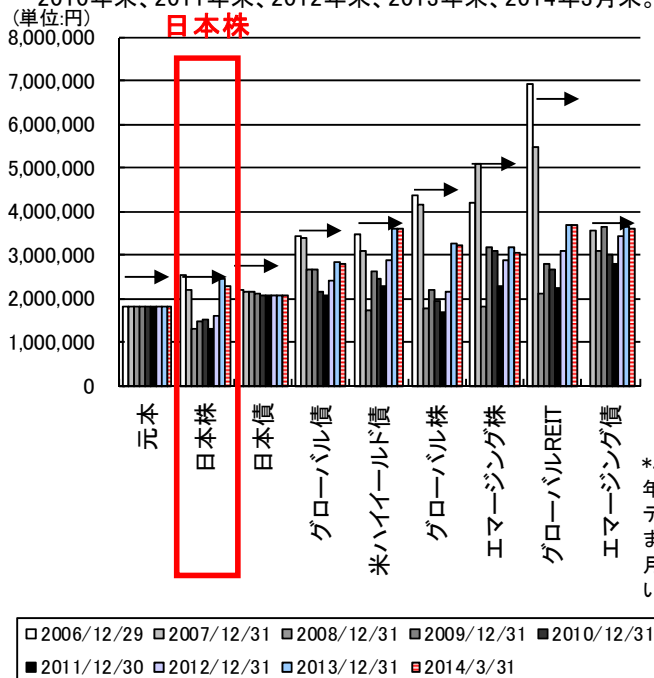
そして次頁グラフ④が15年である。大半の資産でリターンの黒字化傾向がより鮮明となっている。エマージング債が安定的に高い利益で、いずれの期間でも利益となった。前述したNISA口座ランキングで投資信託部門・買付件数1位のリートファンド(グローバルREIT)についてしてみると、エマージング債同様、いずれの期間でも利益となったが、エマージング債より利益の小さい年もある一方で、他の資産を大きく上回る利益の年もあった。グローバル債や日本債も利益こそ小さいが、やはりいずれの期間でも利益で安定的であった。

投資期間 15年

グラフ④

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 時価

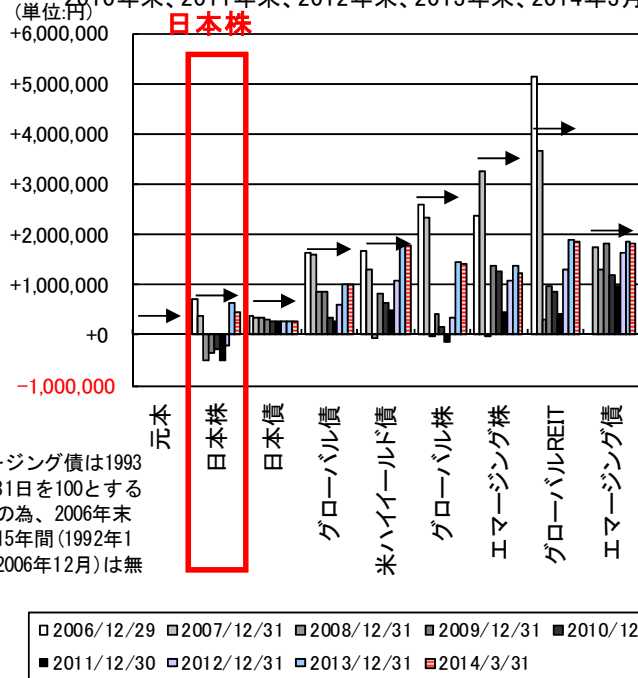
*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、2010年末、2011年末、2012年末、2013年末、2014年3月末。



(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

毎月末に10000円ずつ15年間購入した時の 損益

*左から2006年末、2007年末、2008年末、2009年末、2010年末、2011年末、2012年末、2013年末、2014年3月末。



(出所: ブルームバーグより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

*エマージング債は1993年12月31日を100とするデータの為、2006年末までの15年間(1992年1月から2006年12月)は無い。

以上、グローバル REIT やエマージング債・株、米ハイイールド債やグローバル債、日本債などのリターンの高さ、安定さがよくわかった。 NISA に投資する人はこれらの資産のどれかにリスクや好み、わかりやすさに応じて投資をしてもいい(*投信なので銘柄は十分に分散されている)。 多様な資産と組み合わせる分散投資もいい。

最後に、NISA の基本理念のひとつに「若者や、働く世代の長期的な資産形成を応援」がある。 若者や働く世代の長期的な資産形成のためには、少額で投資出来、投資タイミングも分散出来る積立投資は有力な手段となる。 若者や働く世代は特に、しっかり先の資産毎リターンやリスクを見て、長期の資産形成を達成することが望まれる。

【参考ホームページ】

2014年4月8日付日本経済新聞朝刊「NISA 5000 億円流入 開始3ヵ月、女性が4割 証券 10 社調査 個人資金、相場下支え」…「 http://www.nikkei.com/article/DGKDASGD0404U_X00C14A4EA2000/」。

2014年1月14日付日本版 ISA の道 その41「NISA が本格スタート！ 500 万口座で 3 兆円へ！！ ！その中、積立にも期待！！ ～多様な資産を多様な積立期間(5年・10年・15年)と多様な売却時点で確認～」…「 <http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140114.pdf>」。 2014年4月7日付日本版 ISA の道 その51「NISA で何を買う？ 3 カ月目は既存投資家(投信全体)ではハイイールド債と REIT、新規投資家(NISA 向けファンド)ではアセットアロケーション等やグローバル債が人気。」…「 <http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140407.pdf>」。

以上

(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はいくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
 - 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
 - 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
 - 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。
- また、国際投信投資顧問が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。